

第 110 回 研究会報告

第 110 回技術交流研究会が 2007 年（平成 19 年）12 月 6 日（木）に、株式会社ドーコン会議室で開催されました。

今回は、札幌医科大学解剖学の松村博文准教授をお招きしてご講演いただくとともに、講演会終了後には懇親会を行いました。

以下に、講演内容を掲載します。

■第 110 回 講演概要

「古人骨形態からみたアジアの人類史

—— ジャワ原人から日本人まで ——」

札幌医科大学 解剖学第二講座 准教授

まつ むら ひろ ふみ
松 村 博 文 氏

アジア人の起源はどこまで遡れるのでしょうか。最近の人類進化のシナリオは、現代人（ホモ・サピエンス）が 20 万年前のアフリカ人に起源を発しているという考えが主流です。つまり、よく知られている北京原人やジャワ原人は我々アジア人の祖先の候補から外されています。アフリカから西アジアに拡散したホモ・サピエンスの集団は、数万年前の最終

氷期にはスングランドにまで拡散し、現代アジア人の基層集団となったと考えられます。このような基層集団の存在は、東南アジアの後期旧石器時代の人骨からその面影をみることができます。

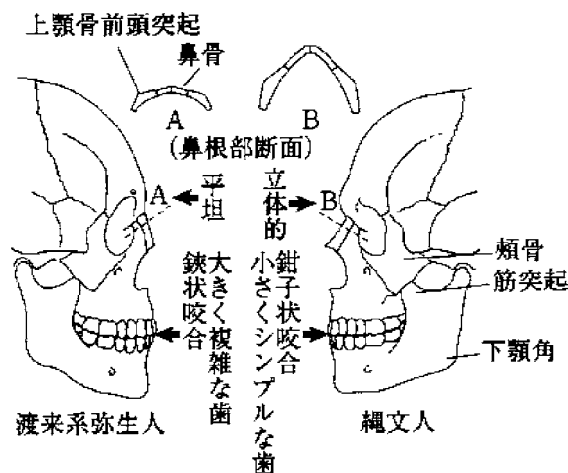


講演は、こんな写真の連続

その後、北東アジアにまで拡散した人類は、厳寒の氷期の中で寒冷地適応を受け、新石器時代には再び南下し、稲作農耕民として日本や東南アジアにまで拡散し、先住のスングランド由来の人々と混血し



弥生人女性のイメージ（寒流系）



縄文人女性のイメージ（暖流系）

ていったとみられます。本講ではアジア各地から発見されている古人骨を紹介し、このような東アジアの人類史を復元しました。



現代日本人とアイヌの起源に関する二重構造モデル

【幹事より】

古人骨の紹介ですから、スクリーンに次々とシャレコウベの写真が披露されたわけですが、アジア各国に出向いて遺跡（墓）を調査発掘し、このような研究を進めていくのは、人並み外れた忍耐力と、少年のような好奇心の賜と感心致しました。

懇親会では、誰が縄文系（ごつごつ濃い顔：寒さに弱い）で誰が弥生系（あっさりのっぺり：寒さに対応）だとか、海外での発掘作業の苦労話を聞き、大いに盛り上がりました。

次回、第111回技術交流研究会は、2008年（平成20年）3月6日（木）に会員の話題提供にて講演会を予定しております。

内容が決まりましたら、HPとEPOでお知らせしますので、ご参加下さい。

また、技術交流研究会では、会員を随時募集しております。（㊦）日本技術士会の会員であれば、どなたでも入会できます。

入会を希望される方、研究会に出席を希望される方は、（㊦）日本技術士会北海道支部事務局（出村）までご連絡ください。

（文責：技術交流研究会幹事 金 秀俊）



後期更新世～完新世初頭のアジア人分布